

エコアクション 21

環境活動レポート

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2018年9月1日



目 次

1. 環境方針
2. 会社概要
3. 許可内容
 - 3-1) 産業廃棄物収集運搬業
 - 3-2) 処分業、再生事業者登録
4. 施設状況
 - 4-1) 千葉リサイクルセンター
 - 4-2) 新木場リサイクルセンター
5. 処理フローシート
 - 5-1) 千葉リサイクルセンター
 - 5-2) 新木場リサイクルセンター
6. 環境活動計画、環境目標、評価
 - 6-1) 2017年～2019年度目標
 - 6-1-1) 本社
 - 6-1-2) 千葉リサイクルセンター
 - 6-1-3) 新木場リサイクルセンター
 - 6-2) 2017年度環境目標及び実績の評価
 - 6-2-1) 千葉リサイクルセンター
 - 6-2-2) 新木場リサイクルセンター
 - 6-3) 2017年度環境活動計画の内容及び評価
 - 6-3-1) 本社
 - 6-3-2) 千葉リサイクルセンター
 - 6-3-3) 新木場リサイクルセンター
7. 環境関連法規への違反、起訴等の有無、その他
8. 地域融和
9. 代表者による全体の評価と見直し結果
10. 次年度の取組内容
 - 10-1) 2018年度環境活動計画の内容
 - 10-1) 本社
 - 10-2) 千葉リサイクルセンター
 - 10-3) 新木場リサイクルセンター

1. 環境方針

基本理念

私たち品川開発株式会社は、
これからも真の循環型社会の実現に貢献します。
次世代の為の地球環境保護を目的とし、
循環型社会の構築を通して広く社会に貢献致します。
地域社会との共生を前提とした廃棄物リサイクルシステムを構築し
限りある資源の有効活用を推進致します。

環境方針

1. 廃棄物の徹底した削減、可能な限りの再資源化を図ります。
2. 環境経営システムを確立し、継続的に改善することにより環境保全に努めます。
3. 関連する法規、規制を遵守いたします。
4. 二酸化炭素削減等、環境負荷の低減を図り、自然との調和、地域社会との共生を前提としたリサイクルシステムを構築いたします。
5. 全ての従業員に教育や意識高揚のための掲示物などを通じて、企業理念・環境方針を徹底し、意識と知識の向上を図ります。
6. グリーン購入を促進し、環境負荷を可能な限り低減することに努めます。
7. お客様をはじめ社会全体の環境意識を高めていくため、講習会の開催や施設見学を通じて積極的に情報を発信していきます。

この環境方針は、社内外に公表します。

2018年6月1日

品川開発株式会社

代表取締役社長 神田 勉

2. 会社概要

1) 事業所名 品川開発株式会社

2) 代表者名 代表取締役社長 神田 勉 (2018年6月1日就任)

3) 所在地

本社	〒105-0012 東京都港区芝大門1丁3番8号 VORT 芝大門Ⅱ	TEL:03-5425-4632 FAX:03-5425-4633	
千葉リサイクルセンター	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港 223 番 9 号	TEL:043-204-7201 FAX:043-204-9511	
新木場リサイクルセンター	〒136-0082 東京都江東区新木場 4 丁目 5 番 23 号	TEL:03-5534-6040 FAX:03-5534-6041	2018年8月末より 受け入れ停止中
白岡リサイクルセンター	〒349-0203 埼玉県白岡市下大崎 888	TEL:0480-48-5914 FAX:0480-93-3500	2018年10月より 営業開始予定

ホームページアドレス：<https://www.shinagawa-kaihatsu.co.jp/>

4) 設立 昭和36年10月

4-1) 工場設立 千葉リサイクルセンター 2004年11月
新木場リサイクルセンター 2016年4月

5) 資本金 3,000万円

6) 事業内容

産業廃棄物処分業

一般廃棄物処分業

産業廃棄物収集運搬業

損害保険代理店業および生命保険の募集に関する業務

《事業活動の詳細》

【環境事業部】

・ 自社施設の運営

- ▶ 千葉リサイクルセンター：木くず中間処理（リサイクルによる木質チップの製造）
- ▶ 新木場リサイクルセンター：混合廃棄物中間処理

・ 廃棄物リサイクル燃料・原料供給事業

- ▶ 産業ボイラー用燃料及びバイオマス発電用燃料チップの仕入販売
- ▶ ボード原料及び製紙原料チップの仕入販売
- ▶ RPF（Refuse derived paper and plastics densified fuel, 廃プラスチックリサイクル燃料）の仕入販売

・ 廃棄物処理・リサイクルのトータルサポート

【保険部】

・ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社及び東京海上日動火災保険株式会社の損害保険代理店

・ シナネンホールディングスグループ企業及びその従業員を中心に、自動車保険、火災保険の取扱及びその付帯業務

7) 売上高 1,055 百万円 (2017年度実績)

※決算年度は、2017年4月1日～2018年3月31日

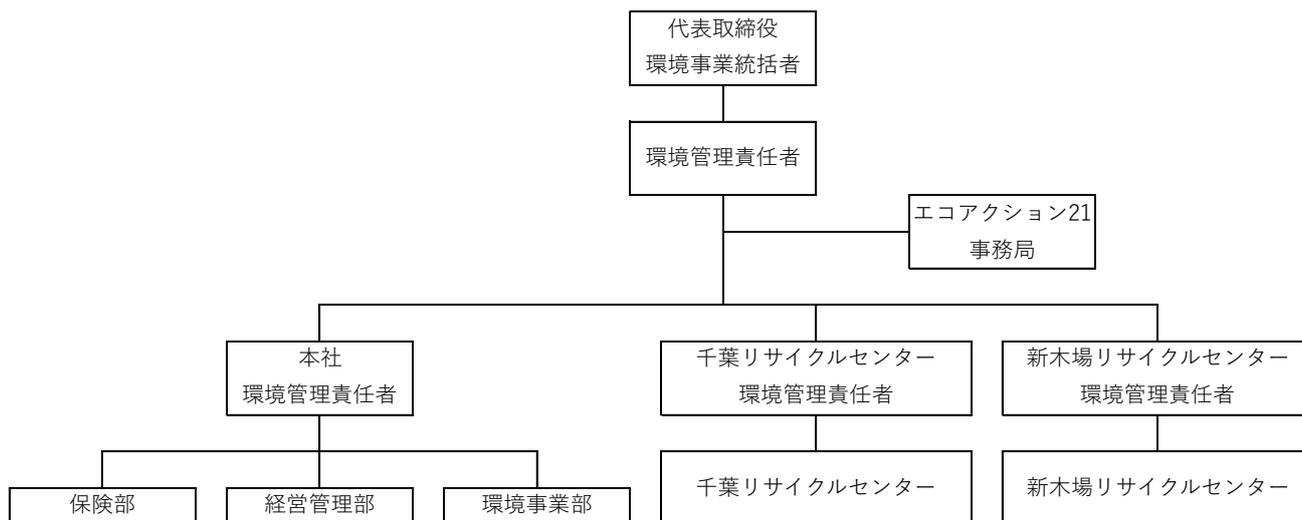
8) 従業員数 40名(2018年6月1日)

9) 環境管理責任者および連絡先

環境管理責任者	東郷 一志	03-5425-4697
千葉 RC 管理責任者	福田 智弘	043-204-7201
新木場 RC 管理責任者	福田 智弘	03-5534-6040

10) 環境組織図

2018年6月1日現在



11) エコアクション 21 認証・登録範囲

認証・登録番号：0001240

認証・登録事業者：品川開発株式会社

本社：東京都港区芝大門1丁3番8号 VORT 芝大門Ⅱ

認証・登録の対象活動範囲：産業廃棄物及び一般廃棄物中間処理業、
木質チップ、RPF 及び金属スクラップ等の売買、
損害保険代理店業

関連事業所：本社、千葉リサイクルセンター、新木場リサイクルセンター

認証・登録日：2007年1月9日

更新・登録日：2017年1月9日

有効期限：2019年1月8日

《白岡リサイクルセンターは2018年10月から営業開始予定となっているため、2019年1月より環境活動を開始し全組織・全活動でエコアクション21環境経営システムに取り組みます。》

《2017年度は産業廃棄物収集運搬業の実績は無し。》

3.許可内容

3-1) 産業廃棄物収集運搬業

各許可地取扱品目一覧				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
許可地	許可番号	許可年月日 有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	リートくず及び陶磁器くず	ガラスくず・コンクリートくず	がれき類	ばいじん	
			1	東京都	13-10-115125	2016/3/9 2021/3/8	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①	○ 注①
積替保管含む				★				★						★	★		★		
2	千葉県	01200115126	2016/2/2 2021/2/1	○	○	○	○	○ 注①②	○	○	○	○	○	○	○ 注①②	○	○ 注①	○	○
3	埼玉県	01100115127	2016/1/18 2021/1/17	○	○	○	○	○ 注①	○	○	○	○	○	○	○ 注①	○	○ 注①	○	○
4	神奈川県	01400115128	2016/1/14 2021/1/13	○	○	○	○	○ 注①	○	○	○	○	○	○	○ 注①	○	○ 注①	○	○
5	茨城県	00800115129	2016/2/4 2021/2/3	○	○	○	○	○ 注①②	○	○	○	○	○	○	○ 注①②	○	○ 注①	○	○
6	群馬県	01000115130	2015/12/17 2020/12/16	○	○	○	○	○ 注①	○	○	○	○	○	○	○ 注①	○	○ 注①	○	○
7	栃木県	00900115131	2016/1/22 2021/1/21	○	○ 注③	○ 注③	○ 注③	○ 注③	○ 注①③	○	○	○	○	○ 注③	○ 注①③	○	○ 注①	○	○

※

注① 石綿含有産業廃棄物を含む 注② 自動車破砕物を除く 注③ 水銀含有産業廃棄物を含む

※積替え保管を含むについては以下の通り

所在地：東京都江東区新木場四丁目5番23号

所在地面積：1513.85 m²

最大保管高さ：1.5m

	産業廃棄物の種類	保管量	
1	廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（石綿含有産業廃棄物に限る）	コンテナ2個	16m ³
2	汚泥、金属くず（廃乾電池に限る）	ペール缶5個	0.1m ³
3	金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光管に限る）	ドラム缶5個	1.3m ³
		保管量合計	17.4m ³

3-2) 処分業、再生事業者登録

千葉リサイクルセンター 産業廃棄物処分業	
許可地	千葉市
許可番号	第05520115125号
事業区分(処理方法)	産業廃棄物 中間処理(破碎)
許可年月日 - 有効期限	2016/11/12 - 2021/11/11
能力	木くず 300 t / 日 (12時間)

千葉リサイクルセンター 一般廃棄物処分業許可	
許可地	千葉市
許可番号	第3号
事業区分(処理方法)	一般廃棄物 処分業(破碎)
許可年月日 - 有効期限	2017/2/3 - 2019/2/2
能力	木くず 300 t / 日 (12時間)

千葉リサイクルセンター 再生事業者登録	
許可地	千葉県
許可番号	第119号
許可の種類 (許可品目)	産業廃棄物 再生事業者登録(木くずの再生)
許可年月日 - 有効期限	2005/7/5 - 期限なし

新木場リサイクルセンター				
許可地	東京都			
許可番号	第13-20-115125号			
事業区分(処理方法)	産業廃棄物 中間処理(破碎、切断、圧縮梱包)			
許可年月日 - 有効期限	2015/5/1 - 2020/4/30			
品目	処理能力 (t/日)			
	破碎単独	破碎混合	切断	圧縮梱包
廃プラスチック類	34.8	218.1	151	66.0
紙くず	48.7		129	66.0
繊維くず	50.6		51	66.0
ゴムくず	16.6		224	-
金属くず (廃乾電池及び廃蛍光管を除く)	55.2		488	-
がれき類	571.2		-	-
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず(廃蛍光管を除く)	261.6		-	-
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず(石膏ボードに限る)	-	-	129	-
木くず	-	-	237	-

古物商許可東京都 〈第 301131607249 号〉

4. 施設状況

4-1) 千葉リサイクルセンター

施設の種類：破砕施設

設置年月日：2004年4月9日

処理能力：木くず、300t/日（12時間）

処理方法：木くず破砕機（ハンマークラッシャー）による破砕

構造・設備概要：*御池鐵工所製

破砕機 MHM - 300BH	1台
*吊下げ式磁選機	1台
*ドラム磁選機	2台
*金属探知機	2台
*振動篩機	1台
*集塵装置	1台
*散水栓	3ヶ所
*水噴霧装置(ミスト)	場内全域

処理実績：木くず産業廃棄物中間処理実績 42,732 t (2017年4月～2018年3月実績)

木くず一般廃棄物中間処理実績 1,346 t (2017年4月～2018年3月実績)

なお、木くず以外の処理は行っていない

環境保全対策

- * 廃棄物の保管施設、破砕ライン及び製品保管ヤードは、全体を一つの建物内に設置
- * 建物内に集塵機設置、コンベア出口等で集塵
- * 建物のベンチレーターには防塵ネットを取り付け
- * 保管時の粉塵防止対策として散水栓3ヶ所、また、天井にミスト噴霧装置設置
- * 騒音対策として、建物内壁に吸音材を使用、また、建物シャッター開口部に面する境界面に高さ1.8mのコンクリート壁設置
- * 振動防止対策として、破砕ライン基礎に有筋コンクリート設置、破砕機は本体と架台間に防振ゴムを取り付けている

所在地：千葉県千葉市美浜区新港 223 番 9 号

産業廃棄物保管施設

	破砕前		破砕後	
	面積(m ²)	保管容量(m ³)	面積(m ²)	保管容量(m ³)
木くず保管施設	433.0	1182.0	-	-
チップ製品保管施設	-	-	67.0	160.0
チップ製品保管施設	-	-	136.0	325.0
チップ製品保管施設	-	-	47.0	113.0
チップ製品保管施設	-	-	67.0	160.0

4-2) 新木場リサイクルセンター

施設の種類：破砕、切断、圧縮梱包施設

設置年月日：2007年11月16日

処理能力：

品目	処理能力（t/日）			
	破砕単独	破砕混合	切断	圧縮梱包
廃プラスチック類	34.8	218.1	151	66.0
紙くず	48.7		129	66.0
繊維くず	50.6		51	66.0
ゴムくず	16.6		224	-
金属くず (廃乾電池及び廃蛍光管を除く)	55.2		488	-
がれき類	571.2		-	-
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず(廃蛍光管を除く)	261.6		-	-
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず(石膏ボードに限る)	-		-	129
木くず	-	-	237	-

構造・設備の概要：*富士鋼業株式会社製

油圧二軸破砕機 SG100D 1台

一軸破砕機 SM1650A 1台

*大阪エヌ・イー・マシナリー株式会社製

六面包装機付き圧縮梱包機 CP2-65SB 1台

*株式会社北町機械製

ギロチン式油圧切断機 KGS37-11 1台

*吊下げ式磁選機 1台

*ドラム式磁選機 1台

*振動フィーダー 1台

*集塵装置 1台

処理実績：中間処理実績(2017年4月～2018年3月実績)

廃棄物種類	トン
廃プラスチック類	1,833
紙くず	59
繊維くず	40
ゴムくず	0
金属くず	246
がれき類	88
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	248
木くず	489

環境保全対策

*廃棄物の保管施設、破砕ラインは建物内に設置

*建物内に集塵機設置、コンベア出口等で集塵

*保管時の粉塵防止対策として、天井よりミスト装置設置

新木場リサイクルセンター保管施設

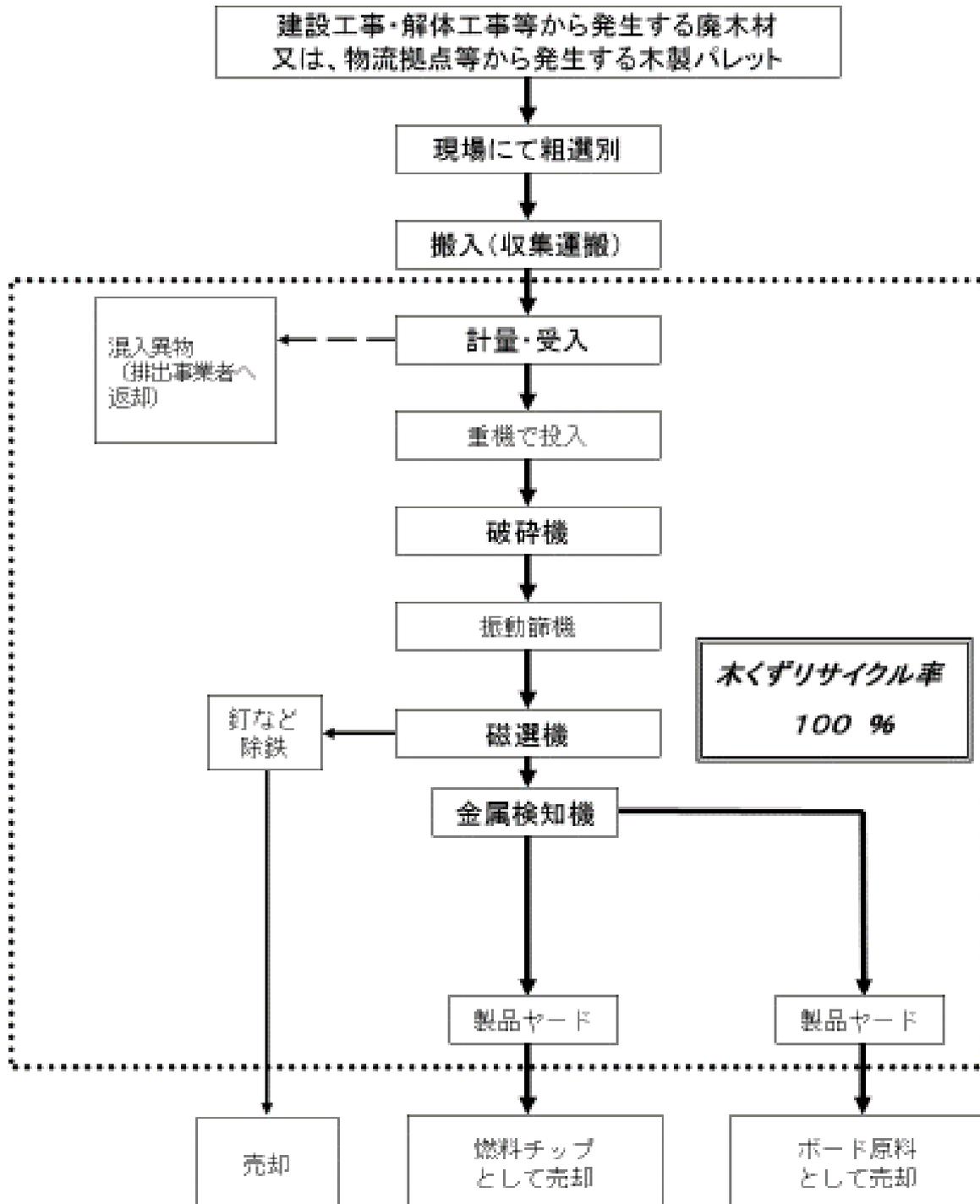
産業廃棄物の種類	処理前		処理後	
	面積(m ²)	保管容量(m ³)	面積(m ²)	保管容量(m ³)
廃プラスチック	9.2	7.1	30.0	66.0
紙くず	7.9	1.6	6.0	12.0
木くず	8.8	8.0	39.0	54.0
繊維くず	8.0	7.0	12.8	16.0
繊維くず	3.0	6.0	-	-
金属くず	-	-	3.0	1.5
ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず (石膏ボード)	8.8	8.0	12.8	16.0
廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、がれき類	70.0	40.8	-	-
廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず	-	-	19.5	27.0

5. 処理フローシート

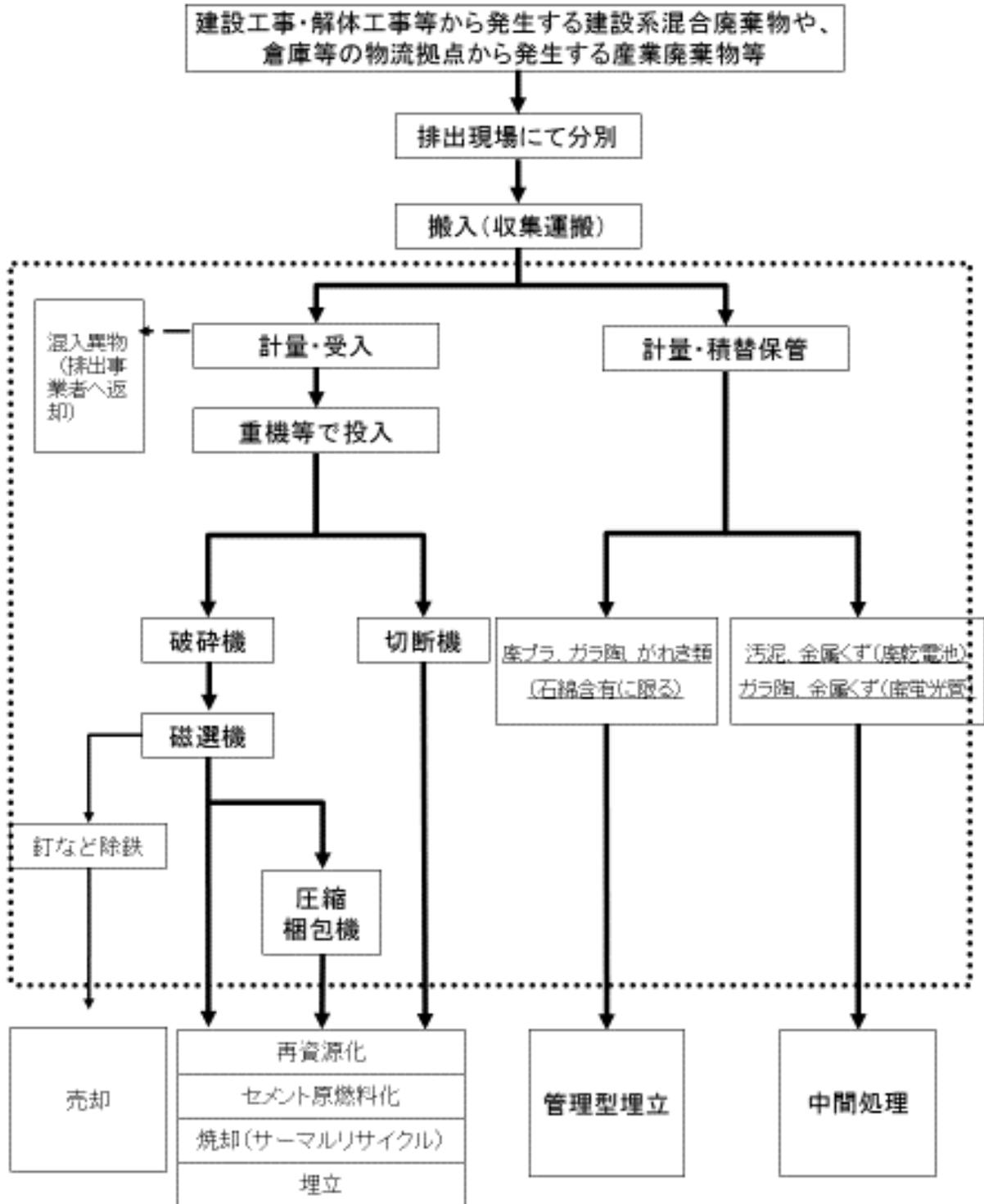
5-1) 千葉リサイクルセンター

品川開発部 千葉リサイクルセンター

処理フローシート



処理フローシート



6. 環境活動計画、環境目標、評価

6-1) 2017年～2019年度目標

6-1-1) 本社

テナントであり、環境負荷の数値は把握不可能である。

そのため、数値化した環境活動計画・環境目標は、策定できない。

6-1-2) 千葉リサイクルセンター

環境目標	項目	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度			
		実績値	単位	実績値 (原単位)	単位	2016年度 比	目標値 (原単位)	2016年度 比	目標値 (原単位)	2016年度 比	目標値 (原単位)
二酸化炭素 (CO ₂) 排出量	電力使用量	710,091 kWh		5.584 kg-CO ₂ /t		0.5%減	5.556	1.0%減	5.528	1.5%減	5.501
	0.4	284,036 kg-CO ₂									
	軽油使用量	110,367 L		5.695 kg-CO ₂ /t		0.5%減	5.666	1.0%減	5.638	1.5%減	5.609
	2.624	289,641 kg-CO ₂									
	ガソリン使用量	4,945 L		0.226 kg-CO ₂ /t		0.5%減	0.225	1.0%減	0.223	1.5%減	0.222
	2.322	11,481 kg-CO ₂									
	合計	—		11.324 kg-CO ₂ /t		—	11.268		11.211		—
排出廃棄物量	廃プラ類	27,320 kg		0.537 kg/t		0.3%減	0.535	0.4%減	0.535	0.5%減	0.534
	一般廃棄物	550 kg		—		0.5%減	547.3	1.0%減	544.5	1.5%減	541.9
水の使用量	上水使用量	4,423 m ³		0.087 m ³ /t		0.5%減	0.087	1.0%減	0.086	1.5%減	0.086
	下水排出量	306 m ³		0.006 m ³ /t		現状維持	0.006	目標維持	0.006	目標維持	0.006
グリーン購入品目		13 品目		—		+1	14	+2	15	+3	16
処理量		50,863 t		各実績値/処理量		-		-		-	

CO₂ 排出係数：平成 27 年度シナネン(株)実排出係数 0.4kg-CO₂/kWh

6-1-3) 新木場リサイクルセンター

環境目標	項目	2016年度		2017年度		2018年度			
		実績値	単位	実績値 (原単位)	単位	2016年度 比	目標値 (原単位)	2016年度 比	目標値 (原単位)
二酸化炭素 (CO ₂) 排出量	電力使用量	169,528 kWh		61.844 kg-CO ₂ /t		0.5%減	61.535	1.0%減	61.226
	0.5	84,764 kg-CO ₂							
	軽油使用量	12,164 L		23.291 kg-CO ₂ /t		0.5%減	23.174	1.0%減	23.058
	2.624	31,922 kg-CO ₂							
	ガソリン使用量	2,473 L		4.189 kg-CO ₂ /t		0.5%減	4.168	1.0%減	4.147
	2.322	5,741 kg-CO ₂							
	合計	—		89.324 kg-CO ₂ /t		—	88.878		88.431
排出廃棄物量	一般廃棄物	176 kg		—		0.5%減	175	1.0%減	174
水の使用量	上水使用量	244 m ³		0.178 m ³ /t		0.5%減	0.177	1.0%減	0.176
	下水排出量	244 m ³		0.178 m ³ /t		0.5%減	0.177	1.0%減	0.176
グリーン購入品目		5 品目		—		+1	6	+1	7
処理量		1,370.6 t		各実績値/処理量		-		-	

2018 年度中に閉鎖予定であるため、2019 年度目標は設定していません。

CO₂ 排出係数：平成 27 年度東京電力エナジーパートナー(株)実排出係数 0.5kg-CO₂/kWh

6-2) 2017 年度環境目標及び実績の評価

6-2-1) 千葉リサイクルセンター

環境目標	項目	2017年度										
		目標値 (原単位)	単位	実績値	単位	実績値 (原単位)	単位	差異	達成率	達成 度合	評価	
二酸化炭素 (CO ₂) 排出量	電力使用量	5.556 kg-CO ₂ /t		626,628 kWh		6.380 kg-CO ₂ /t	0.824	(114.8%)	×	生木などの破砕しにくい搬入物が微増し、処理効率が悪化した。		
	(排出係数)	0.449 kg-CO ₂ /kWh		281,356 kg-CO ₂								
	軽油使用量	5.666 kg-CO ₂ /t		100,385 L		5.974 kg-CO ₂ /t	0.308	(105.4%)	×		受け入れ量とチップ排出のバランスが市場により崩れ、結果として稼働率が低下した。	
	(排出係数)	2.624 kg-CO ₂ /L		263,444 kg-CO ₂								
	ガソリン使用量	0.225 kg-CO ₂ /t		2,342 L		0.123 kg-CO ₂ /t	-0.102	(54.8%)	○			エコドライブを努力し達成となった。
	(排出係数)	2.322 kg-CO ₂ /L		5,437 kg-CO ₂								
	合計	11.447 kg-CO ₂ /t		550,238 kg-CO ₂		12.478 kg-CO ₂ /t	1.031	(109.0%)	×			
排出廃棄物量	廃プラ類	0.535 kg		19,440 kg		0.441 kg/t	-0.094	(82.4%)	○	混入物が減少し達成となった。		
	一般廃棄物	547 kg		533 kg		—	-14	(97.4%)	○	分別に努力し達成となった。		
水の使用量	上水使用量	0.087 m ³		4,036 m ³		0.092 m ³ /t	0.005	(106.3%)	×	集塵設備老化に伴う散水量が増加し、未達成となった。		
	下水排出量	0.006 m ³		312 m ³		0.007 m ³ /t	0.001	(116.7%)	×	シャワー室の新設により使用量が増加した。		
グリーン購入品目		14 品目		14 品目		—	0	(100.0%)	○	事務用品についてエコマーク商品を積極的に購入できた。		
産業廃棄物処理量				44,097 t	各実績値/処理量							

2017 年度

二酸化炭素排出量：549,576 kg-CO₂

CO₂ 排出係数：平成 28 年度シナネン(株)調整後排出係数 0.449kg-CO₂/kWh

6-2-2) 新木場リサイクルセンター

環境目標	項目	2017年度									
		目標値 (原単位)	単位	実績値	単位	実績値 (原単位)	単位	差異	達成率	達成 度合	評価
二酸化炭素 (CO ₂) 排出量	電力使用量	61.535 kg-CO ₂ /t		252,432 kWh		39.581 kg-CO ₂ /t		-21.954	(64.3%)	○	処理効率の向上に取り組み 達成となった。
	(排出係数)	0.474 kg-CO ₂ /kWh		119,653 kg-CO ₂							
	軽油使用量	23.175 kg-CO ₂ /t		36,608 L		31.780 kg-CO ₂ /t		8.606	(137.1%)	×	処理困難物の増加により未 達成となった。
	(排出係数)	2.624 kg-CO ₂ /L		96,072 kg-CO ₂							
	ガソリン使用量	4.167 kg-CO ₂ /t		2,342 L		1.799 kg-CO ₂ /t		-2.368	(43.2%)	○	エコドライブを努力し達成と なった。
	(排出係数)	2.322 kg-CO ₂ /L		5,437 kg-CO ₂							
	合計	88.876 kg-CO ₂ /t		221,162 kg-CO ₂		73.160 kg-CO ₂ /t		-15.717	(82.3%)	-	-
排出廃棄物量	一般廃棄物	175 kg(総量)		258 kg		-		83.0	(147.4%)	×	事務所作業増加により廃棄 書類が増加し未達成となっ た。
水の使用量	上水使用量	0.178 m ³ /t		318 m ³		0.105 m ³ /t		-0.073	(59.0%)	○	節水に取り組み達成となっ た。
	下水排出量	0.178 m ³ /t		318 m ³		0.105 m ³ /t		-0.073	(59.0%)	○	節水に取り組み達成となっ た。
グリーン購入品 目		6 品目		6 品目		-		0	(100.0%)	○	事務用品についてエコマーク 商品を積極的に購入でき た。
産業廃棄物処理量				3,023 t							

2017 年度

二酸化炭素排出量：220,112 kg-CO₂

CO₂ 排出係数：平成 28 年度東京電力エナジーパートナー(株)調整後排出係数 0.474kg-CO₂/kWh

2017 年度二酸化炭素排出量合計 769,688 kg-CO₂

6-3) 2017 年度環境活動計画の内容及び評価

6-3-1) 本社

テナントであり、環境負荷の数値は把握不可能である。

そのため、数値化した環境活動計画・環境目標は、策定できない。

本社環境活動実績(2017年度)

2018年6月5日

目 標	実施項目	達 成 手 段	評 価				コ メント
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
二酸化炭素の削減	電気の管理	クールビズの導入(冷房設定温度28℃、ノーネクタイ)	○	○	-	-	特に大きな問題は見られない。 引き続き継続する。
		ウォームビズの導入(暖房設定温度20℃、セーター着用推進等)	-	-	○	○	
		照明の適正化、スイッチの適正管理(昼休み時間の消灯)	○	○	○	○	
	燃料管理	計画的な営業車利用による燃料の削減	○	○	○	○	
		エコドライブの徹底	○	○	○	○	
廃棄物排出量の削減	事務所	一般廃棄物の分別管理の徹底、再資源化	○	○	○	○	新入社員入社時、 両面印刷が未設定であったため 徹底は出来なかったが、その後は改善した。
		紙削減の為、使用済み用紙の裏紙を利用	○	○	○	○	
		両面印刷、両面コピーの徹底	△	○	○	○	
		機密書類の再資源化	○	○	○	○	
水使用量削減	水量管理	台所の節水(溜め洗い等)	○	○	○	○	引き続き継続する。
		トイレの節水(節水アイテムの設置)	○	○	○	○	
その他の取組		グリーン購入の促進(適合品の購入)	○	○	○	○	グリーン購入に関し、より適合商品を探す意識付けに成功した。
		5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)管理	○	○	○	○	
		従業員への教育(環境意識の向上)	○	○	○	○	

6-3-2) 千葉リサイクルセンター

2017年度 環境活動実績
千葉リサイクルセンター

2018年6月5日

目 標	実施項目	達 成 手 段	評 価				コ メ ン ト
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
二酸化炭素の削減	電気の管理	デマンド管理システム活用による効率的な生産を行う	△	△	△	△	デマンド管理システムの更なる活用、廃材受入とチップ搬出のバランス改善、オペレーションスキルの向上を目指す。
		空調の適温化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	○	○	○	
		照明の適正化、スイッチをこまめに切る	○	○	○	○	
		操業時節電(必要無い機器設備の運転をこまめに停止)	○	○	○	○	
	燃料管理	重機関連のアイドリングストップ	○	○	○	○	
		機器自主清掃とメンテナンスの徹底	○	○	○	○	
		効率的な操業による時短を図る	△	△	△	○	
廃棄物排出量の削減	入出荷作業時	混入異物分別および減容管理の徹底	○	○	○	○	機密資源の再資源化について、今後徹底していく
		排出事業者への不適合物の周知徹底	○	○	○	○	
	事務所	一般廃棄物の分別管理および再資源化の徹底	○	○	○	○	
		紙削減の為、使用済み用紙の裏面利用の促進	○	○	○	○	
		電子媒体によるペーパーレスの推進	○	○	○	○	
		使用済み封筒の再利用	○	○	○	○	
	機密書類の再資源化	△	△	△	△		
水使用量削減	水量管理	廃材への散水量の適正化	○	○	○	△	必要以上に散水していないか見直す
		ミスト装置の有効利用による放水の節約	○	○	○	○	
		製品(チップ)への無駄な散水防止	○	○	○	○	
その他の取組		グリーン購入の促進(適合品の購入)	○	○	○	○	問題なし
		自治会清掃への積極的参加による地域環境保全の推進	○	○	○	○	
		従業員への教育(安全・環境意識の向上)	○	○	○	○	
		5Sの徹底	○	○	○	○	
		製品の環境性能の向上	○	○	○	○	

6-3-3) 新木場リサイクルセンター

2017年度 環境活動実績
新木場リサイクルセンター

2018年6月5日

目 標	実施項目	達 成 手 段	評 価				コメント
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
二酸化炭素の削減	電気の管理	電気フォークリフトの効率使用	○	○	○	○	軽油の増加は、生産量の増加に伴い処理困難廃棄物が入荷されることがあり、重機の稼働率も上がったことが原因と考えられる。
		空調の適温化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	△	○	○	
		照明の適正化、スイッチをこまめに切る	○	○	○	○	
		作業時節電(必要無い機器設備の運転をこまめに停止)	○	○	○	○	
	燃料管理	重機関連のアイドリングストップ	○	○	○	○	
		機器自主清掃とメンテナンスの徹底	○	○	○	○	
		効率的な作業による時短を図る	○	○	△	△	
廃棄物排出量の削減	入出荷作業時	混入異物分別および減容管理の徹底	○	○	○	○	一般廃棄物の増加は、生産量の増加に伴い事務作業が増加し、さらに廃棄書類も増加したと考えられる。
		排出事業者への不適合物の周知徹底	○	○	○	○	
	事務所	一般廃棄物の分別管理および再資源化の徹底	○	○	○	○	
		紙削減の為、使用済み用紙の裏面利用の促進	○	○	○	○	
		電子媒体によるペーパーレスの推進	○	○	○	○	
	使用済み封筒の再利用	○	○	○	○		
水使用量削減	水量管理	廃材および車両への散水量の適正化	○	○	○	○	問題なし
		ミスト装置の有効利用による放水の節約	○	○	○	○	
その他の取組		グリーン購入の促進(適合品の購入)	○	○	○	○	問題なし
		従業員への教育(安全・環境意識の向上)	○	○	○	○	
		5Sの徹底	○	○	○	○	
		製品の環境性能の向上	○	○	○	○	

7. 環境関連法規への違反、起訴等の有無、その他

2018年6月5日に準拠状況を確認した。

適用となる関連法規等	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	遵守
廃棄物処理に関する各条例、施行規則、指導要領	遵守
騒音規制法	遵守
振動規制法	遵守
消防法	遵守
労働安全衛生法	遵守
計量法	遵守

- ・2004年度11月工場の設立以来、環境関連法規への違反なし
- ・関係当局からの違反等の指摘及び起訴等に関する事案も過去に1度もなし
- ・外部からの苦情等の受付も1件もなし

8. 地域融和

- ・道路清掃実施 2017年5月12日(金)、7月13日(木)、9月7日(木)
11月9日(木)、12月7日(木)、2018年2月8日(木)
- ・工業団地自治会出席 2017年4月14日(金)

9. 代表者による全体の評価と見直し結果

- ・千葉リサイクルセンターにおいて、2004年の操業開始から月日が経過しているため設備に劣化が見受けられる。本年度においては集塵装置の不具合から稼働時間が増加し、電力や軽油・水使用量の原単位が増加してしまったと考えられる。エネルギー量の原単位が悪化してしまった事に対しては、オペレーションスキルを向上させることで改善が見込まれる。下水の原単位の増加の一因として、シャワー室の新設があげられる。従業員から良好と報告を受けているので、労働環境面では転換している。
- ・新木場リサイクルセンターにおいて、おおむね目標達成できた。未達事項については、昨年度と比較した際の入入量増加が関わってくると考えられる。具体的には、処理困難物を受け入れた際には重機を通常より多く稼働する必要があるため軽油を多く消費する。他にも、事務作業の増加に伴う不要書類の増加、そして一般廃棄物の増加へとつながっていると考えられる。
- ・廃棄物排出量抑制の為、機密書類の再資源化については、全社で強化していく。
- ・白岡リサイクルセンターを新設し、良質なチップ製品の生産量の拡大に取り組むこと。また、白岡リサイクルセンターにおいて、法令順守体制を構築しリサイクルの推進を図ること。

10. 次年度の取組内容

2018年度環境活動計画の内容

10-1) 本社

テナントであり、環境負荷の数値は把握不可能である。

そのため、数値化した環境活動計画・環境目標は、策定できない。

2018年6月5日作成

目 標	実施項目	達 成 手 段
二酸化炭素の削減	電気の管理	クールビズの導入（冷房設定温度 28℃、ノーネクタイ）
		ウォームビズの導入（暖房設定温度 20℃、セーター着用推進等）
		照明の適正化、スイッチの適正管理（昼休み時間の消灯）
	燃料管理	運転日報の記入
		計画的な営業車利用による燃料の削減
		Eco ドライブの徹底
廃棄物排出量の削減	事務所	一般廃棄物の分別管理の徹底、再資源化
		紙削減の為、使用済み用紙の裏紙を利用
		両面印刷、両面コピーの徹底
		機密書類の再資源化
水使用量削減	水量管理	台所の節水（溜め洗い等）
		トイレの節水（節水アイテムの設置）
その他の取組		グリーン購入の促進（適合品の購入）
		5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）管理
		従業員への教育（環境意識の向上）

目 標	実施項目	達 成 手 段
二酸化炭素の削減	電気の管理	デマンド管理システム活用による効率的な生産を行う
		空調の適温化（冷房 28℃ 暖房 20℃）
		照明の適正化、スイッチをこまめに切る
		操業時節電（必要無い機器設備の運転をこまめに停止）
	燃料管理	運転日報の記入
		重機関連のアイドルストップ
		機器自主清掃とメンテナンスの徹底
		効率的な操業による時短を図る
廃棄物排出量の削減	入出荷作業時	混入異物分別および減容管理の徹底
		排出事業者への不適合物の周知徹底
	事務所	一般廃棄物の分別管理および再資源化の徹底
		紙削減の為、使用済み用紙の裏面利用の促進
		電子媒体によるペーパーレスの推進
		使用済み封筒の再利用
		機密書類の再資源化
	水使用量削減	水量管理
ミスト装置の有効利用による放水の節約		
製品（チップ）への無駄な散水防止		
その他の取組		グリーン購入の促進（適合品の購入）
		自治会清掃への積極的参加による地域環境保全の推進
		従業員への教育（安全・環境意識の向上）
		5 S の徹底
		製品（処理後チップ化製品）の環境性能の向上

10-3) 新木場リサイクルセンター

2018年6月5日作成

目 標	実施項目	達 成 手 段
二酸化炭素の削減	電気の管理	電気フォークリフトの効率使用
		空調の適温化（冷房 28℃ 暖房 20℃）
		照明の適正化、スイッチをこまめに切る
		作業時節電（必要無い機器設備の運転をこまめに停止）
	燃料管理	運転日報の記入
		重機関連のアイドリングストップ
		機器自主清掃とメンテナンスの徹底
		効率的な操業による時短を図る
廃棄物排出量の削減	入出荷作業時	混入異物分別および減容管理の徹底
		排出事業者への不適合物の周知徹底
	事務所	一般廃棄物の分別管理および再資源化の徹底
		紙削減の為、使用済み用紙の裏面利用の促進
		電子媒体によるペーパーレスの推進
		使用済み封筒の再利用
		機密書類の再資源化
	水使用量削減	水量管理
ミスト装置の有効利用による放水の節約		
その他の取組		グリーン購入の促進（適合品の購入）
		従業員への教育（安全・環境意識の向上）
		5Sの徹底
		製品（処理後チップ化製品）の環境性能の向上

新木場リサイクルセンターは2018年度中に閉鎖予定

以 上

※次回の環境活動レポートは2019年9月に発行予定